

成願寺

季報

141

令和6年8月18日
(2024年)

目次

「瑩山禪師の御教えをどう活かしていくか」山口正章……1
裏千家茶道教室「ひさごの会」から薄茶一服のお誘い……5
中野区から幼稚園節分豆まきの報告……7
山内短信……8

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

連載最終回 七百回大遠忌を迎えた大本山總持寺御開山

瑩山禪師の御教えをどう活かしていくか

福井県龍泉寺住職 山口正章

瑩山禪師は、はるか七百年以上前の鎌倉時代に生きた禅僧です。しかしその教えは現代の私たちの生活や文化など多方面にわたって深い影響を及ぼしております。それは「禅文化」「仏教文化」などと称され、私たちの衣食住全般に無意識のうちに刷り込まれていると言っても過言ではありません。

禪師のご撰述は『伝光録』や『瑩山清規』『坐禅用心記』が知られていますが、他に『十種疑問』あるいは『十種疑滞』と呼ばれる、極めて興味深い内容の書物があります。

『十種疑問』は、後醍醐天皇が孤峰覚明師を使者として、瑩山禪師に仏法に関する十項目について質問を送られ、これに対して禪師が返答されたものです。

後醍醐天皇が発した問いは、極めてありふれて平

秋彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ
九月二十二日(日) 秋分の日
十一時 受付始まり
十二時 講談 日向ひまわり師
十三時 法要
＊日向ひまわり師の講談をお楽しみいただいた後、
参列者一同にて「修証義」を奉読いたします。

凡でありながらも、仏教や禅の教えに対する根本的な質疑でした。それは、仏や禅の教えを求める人ならば誰でも一度は抱くものであります。それに対する禪師の答えも、平易ながらもことに見識高く滋味あふれる内容となっております。此処ではそのうち三つの問答(現代語訳)をみていきます。

・常に経巻を転読するとは

問い 古い言葉を見ていると《経巻を手に執らずにいつも如是の経を転読すること百万億巻である》とあります。そこでお尋ねしますが、経巻を手に執

らないでいったい何を読むことになるのでしょうか。

答え このお経というのは文字で書いた經典のことでありません。人々、お互い一人ひとりが実は經典なのです。我が身体は經典をおさめる書庫です。この中に「心」という經典を納めています。四大五蘊（地水火風と色受想行識）はこの經典を記した紙です。お悟りはこの經卷の軸です。昼夜一日、三万六千回も出たり入ったりする呼吸が、この經典の転読ということになります。陛下がこのように觀察されれば、刹那の間に五千余りの經卷をお読みになることになるのです。

・坐禪修行は空しいか

問い 大通智勝仏は十劫という極めて永い間坐禪をされたが、終に悟りを得ることも仏道を成就することはありませんでした。だとすると、今の私たちが坐禪を修行しても空しく時間を費やすだけになるのではないのでしょうか。

答え 仏法には、もともと姿や形はありません。それは広大なものです。もし何かが現れたらそれは

化け物です。何にせよ、ある限定されたものによって得たものは、やがて失ってしまいます。従来、この仏法は自我中心の欲望を離れて何ものも得ないところで得ており、現前させようというはからいのないところに現れているのです。ところが迷っている人はあやまって仏法に執着するものですから、釈尊の説く心理に背いてしまうのです。

・靈供の功德はあるのか

問い 仏教ではことごとく功德を積むことを修行としていて、人々は亡くなった父母に靈前を供えたり茶湯を献じますが、そのようにお供えしても供物が一向に消える様子がなく減ることもありません。このことが疑問です。

答え 壁を隔てても梅の香りは親しく感じられます。梅の花の香りは部屋いっぱいに満ち溢れていても、花の芯は少しも減ることはありません。また、鼻で香りをかいても鼻に何の跡かたも残りません。供養のまごころが通じるのも、まさにこのようなものです。もし、お供え物が減るようなことがあれば、それはお化けであって有限の供養といわなければな

りません。仏に対する真のご供養は無相すなわち無限であります。供養を受けても跡かたもなく減ることもありません。それはあたかも、雨露が草木を育てるようなものです。陛下がもしこの説明でご納得されないというのであれば、例えば、手紙で用件を知ることが出来ますが、だからといって、文字も紙も少しも損なうことはないのです。ただ、一念をもつて心を観ずれば、そこに供養は立派に成り立つのがあります。

如何でしょうか。禪師は供養の本質を見事に説いております。すなわち「供養はまごころ」であります。私心のないまごころこそ供養の基本的な心構えであります。まごころは無限であり、三世十方に通じるのです。また『洞谷記』^{とうこくき}という書物からも一節ご紹介いたします。

たとい、難値難遇^{なんちなんぐう}の事あるとも、必ず和合和睦^{わごうわぼく}の思を生ずべし

(たとえ極めて困難なことに遭遇したとしても必ず和合し、睦み合う思いを起こすべきである)

「尽未来際置文^{じんみらいさいおきぶん}」と題する文章からです。これは寺

院に限らず一般社会に於いても心しなければならぬお言葉と言えましょう。このことを禪師は「一味同心」とも示されました。同じような意味で道元禪師は「愛語」とお示しです。

最後に『坐禅用心記』からご紹介いたします。

常^{だいたい}に大慈大悲^{だいじだいひ}に住して坐禅無量の功徳を一切衆生に回向せよ

大慈大悲とは、この上もなく慈悲深いことです。禪師は慈悲に身を置き、あらゆるものに坐禅の功徳を回らすべきであると説かれます。坐禅に具わる無量功徳を回らすところに、お釈迦様があらわれ、仏法がはたらくのです。

『坐禅用心記』は坐禅についての心構えなどを記した教えですが、坐禅のときだけにとどまらず、顔を洗う・仕事を・食べる・トイレに行く、そうした普段の生活全般、行住坐臥にわたり「大慈大悲に住して」行動する事が肝要と存じます。

それは自分だけのことでなく、みんなの幸せを願うことでもあります。みんなが安らぎを得るようにと、そう願いながら生活を送る。その生活態度の在りようが「大慈大悲」であり「仏様と共に生きて

いく」ということなのです。その事に関連して、最近私が経験した事をご紹介します。

地震で被災したピアノ

本年元日に突如として起こった能登半島地震から半年以上が経過しましたが、被災地は未だ復興が進んでおらず、被災された方々の生活も依然として大変な困難を強いられています。

四月の或る日、私に一本の電話がかかってきました。石川県に住む大学の先輩で、音楽活動を行なっている声楽家からでした。曰く「地震で被災したピアノをボランティアで修理している人がいて、その方からの依頼で電話しました」と。ボランティアの方は富山県で楽器店を営む八十歳のピアノ調律師にて、既に十台近くのピアノを被災家屋から救い出し、修理して持ち主に返却する活動をしているとの事。

続けて「その中に一台のグランドピアノがありませんが、持ち主の家屋が全壊してしまい、戻すことはできないので引き取ってくれる人を探しています。就いては山口さんのお寺に引き取ってもらえないだろうか」と。さらに詳しく伺えば、全壊家屋からピアノを一人では運び出せないの、ボランティア仲

間に手伝ってもらった。ボランティア仲間とは東日本大震災で被災した宮城県曹洞宗ご寺院様との事。ご住職の名前を伺ったらそのお弟子様と知り合いました。ピアノは支える三本の脚の一本が折れて、床下に落ちてしまう損傷を受けたが、無事に修理を施すことができた。そのピアノの持ち主は、輪島市の大本山總持寺祖院の門前に居る方との事。

私の住職地は總持寺の直末(直接の末寺)ですので、「これは幾つもの因縁で持ち込まれた話に違いない」と思いました。学生時代にピアノを少々習っていた私は、修理を終えた五月連休に保管されている富山県の工房へ伺い、どのようなピアノか、またどんな音色を奏でるのか、試し弾きをしました。実際に弾いてみると実に柔らかくてあたたかな音色で、これはお寺にふさわしい響きだと直感しました。

そして引き取ることを決意し、六月に自坊本堂へ運びました。自坊では毎年七月第一日曜日にお盆の法要を修行し、引き続き法話やミニコンサートを行っております。本年は被災ピアノの弾き初めを兼ねて「能登半島地震復興祈願コンサート」を計画しました。弾き初めは近所の小学六年生の女の子にお願いし、また今回の話を頂いた先輩の声楽家に歌って頂きま

した。彼女もまた地震で自宅が半壊した被災者です。ミニコンサート当日は、檀信徒以外にも大勢の市民が集まりました。そしてピアノの音色に耳を澄ましながら、共々に地震の怖さと心構えを改めて確認し、被災地の一日も早い復興・被災された方々の安寧をお祈り申し上げたことでした。

被災ピアノは本堂に常設し、いつでも誰でも弾けるようにしてあり、既にピアノ教室の発表会などが予定されており、また、参拝者や拝観団体が来訪の際は、短い曲を弾いてお迎えし、能登の被災地に御心を寄せて頂きたく念じております。読者の皆様も北陸方面にお出かけの折りは、どうぞお立ち寄りください。

總持寺祖院の復興再建に関しては、祖院だけ先んじて行うのではなく、被災地の家屋・寺院伽藍の復興や人々の生活再建と共に進められるべきでありましょう。これこそが瑩山禅師の示される「常に大慈大悲に住して功德を一切衆生に回向する」ことであり、また道元禅師の示される「自未得度先度他^{じみとくどせんどうた}」（自分より他人の幸せを先に念じて行動する）ではないでしょうか。

以上、四回にわたり、七百回大遠忌に際して瑩山

禅師に関するお話をさせて頂きました。幾つかの御教えやエピソードをご紹介しましたが、どれか一つでも皆様の御心に残り、これからも瑩山禅師に親しまれるきっかけとなりましたら幸いです。

また、執筆の機会を与えてくださいました成願寺様のご懇情に感謝申し上げます、成願寺様並びに読者諸賢のご多幸とご発展を祈念して筆を擱^おきます。ありがとうございました。

合掌

裏千家茶道教室『ひさごの会』から薄茶一服のお誘い

「ひさごの会」主宰 巖 宗鶴

茶の湯とはただ湯をわかし茶をたてて

のむばかりなる事と知るべし

裏千家十一代玄々斎が纏められたとされる今日に続く「利休百首」の中に、この一首があります。私が好きな首のうちのひとつです。この歌は、お茶はただ湯を沸かしてお茶を点てただけだと謳っています、実際お茶室という空間では、亭主も客も点前手順や心構えなどを細やかに学ばなくてはなりませんから、矛盾しているようにも聞こえます。亭主（もてなす側）は、このたった一服を、大



切な友人に召し上がっていただきたい、と考えます。そして、その一皿をなんとか美味しく召し上がっていただきたい。それを突き詰めて準備をしていると、お抹茶の量やお湯の温度や量、茶筌を振る技術が完璧にできたとしても、まだ愉しんでいただけることがたくさんある、という気持ちがどんどん芽生えていきます。お花やお菓子にも季節を感じていただきたい。高価でなくても工夫を凝らした道具で愉しんでいただきたい、自分の立ち振る舞いも美しくして、もてなしたい、言葉を超えて感謝の気持ちを表したい……、等々思いは尽きません。

たった一皿のお茶を召し上がっていただくのに、自分の心次第で、いくらでもお相手に思いをカタチにして差し上げられる。それが何より嬉しい。楽しい。面白い。この一首には、そういった利休居士や歴代宗匠の思いが込められているように思うのです。

そして翻って客は、自分

のために用意してくれた亭主の心尽しのもてなしに、礼を尽くしたい。言葉だけではなく、亭主の心配りのひとつひとつに感謝の気持ちを表したい。でもただ「美味しかった・楽しかった」と言葉で伝えるだけではなく、亭主がこの一会に込めてくれた心に寄り添う客でありたいという思いが、茶道への学びを深めていくのではないかと思います。

みなさんも同じように、誰かを喜ばせたい、喜びを分かち合いたいと思う気持ちは自然と湧き上がるものだと思います。それがお茶である必要はないのですが、私がお茶をお勧めしたい理由は、二つです。ひとつはお茶はとても素朴（シンプル）だから。そしてもう一つは、日本の文化と芸術を余すところなく愉しむことができるから。ご縁をいただいた方に、美味しいお茶を一皿。ほんのひと時をお茶を手にくつろいでいただく。シンプルだからこそ、心が鎮まり、五感が目覚め、季節の移ろいにも敏感になり、物事の本質が見えてくることもあるでしょう。

こうしてみますと、坐禅にも同じ世界がありますね。（お抹茶と坐禅の関係もまた密接ですが、今回は割愛にて）。

現代の時間の流れは速く、どこまでも効率性を求

めている時代です。こういう時代だからこそ、一度足を止めて深呼吸して、お茶を一服お召し上がりに、当会へお運びいただけましたら幸いです。

お薄茶とお菓子の喫茶体験は無料ですので、お気軽にどうぞ。

【お稽古日】 毎月五～六日間開催（金・土・日のいずれか不定期）。原則月に二回。翌月まで振替可能。

【お稽古場所】 成願寺小笹庵（南書院） 一階

【入会金】不要（扇子・帛紗・懐紙などの必要道具は実費）

【月謝】 水屋料（抹茶・主菓子・お干菓子・炭 込み

入門・初級・中級コース 八千円

小中コース 七千円

*六ヶ月を一期間としてカリキュラムを作成。更新をご希望の場合は継続が可能です。

【講師】 今日庵裏千家茶道准教授 巖 宗鶴いわお かつたけ

約十五年間のIT企業での秘書業の傍ら茶道に出会う。企業を退職後に茶道教室を開催するも中断し、京都・裏千家学園茶道専門学校研究科にて半年間修行。帰京して教室を再開。今に至る。

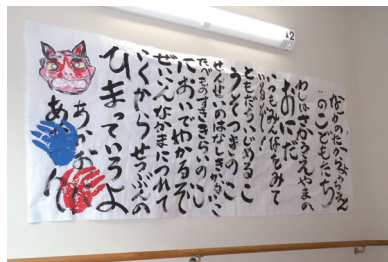
【お問い合わせ】 Email 1000hisago@gmail.com

【ホームページ】 <https://hisago-no-kai.studio.site>

◎中野たから幼稚園節分豆まきの報告



「鬼はそと！ 福はうち！」



さかうえやまのおにから届いた手紙

去る二月二日（金）、中野たから幼稚園で節分恒例の豆まきが行われました。子どもたちは事前に鬼のお面と福豆を入れる升を手作りしてしてスタンバイ。さかうえやまからやって来た赤鬼と青鬼は迫力満点で、怖さに泣き出してしまいう子、逃げてしまいう子もいましたが、お友達や先生を守ろうと勇氣をもつて立ち向かう子の姿も見られました。協力して豆をまくと、最後はさすがと逃げていく鬼たちでした。教室に戻ると先生から「よくがんばった」と褒めてもらい、豆を一粒ずついただいて節分行事を終えました。

山内短信

◎中野区教育委員会設置案内板リニューアル



山門前に中野区教育委員会による「蓮池鍋島家墓所」の案内板が設置されています。去る三月にリニューアルしていただき、「中野区認定観光資源」のロゴマークが記載されました。

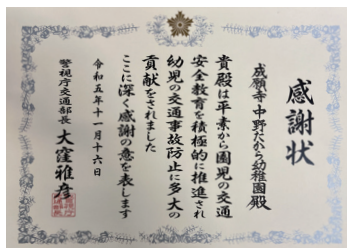
◎墓地入り口に坪庭完成

箱根植木さんにより、墓地を入った左手に坪庭が完成しました。古灯籠や庭石が配置され、趣のある空間となりました。



◎警視庁交通部長より感謝状

昨十一月、成願寺中野たから幼稚園宛てに大窪雅彦警視庁交通部長より



「園児の交通安全教育の積極的な推進」について感謝状をいただきました。

◎能登半島地震義援金について

七月十一日孟蘭盆先祖まつりの日、義援金ご寄進いただきました皆様誠にありがとうございました。引き続き秋彼岸の期間中もご寄進を受け



ご寄進くださる参列者の皆様

付けることにします。お預かりした義援金は年内にも孟蘭盆会の際にお話しを賜った永光寺ご住職屋敷智乗老師にお渡しし、大本山總持寺祖院をはじめとする被災地域寺院の復興に役立ていただく予定です。

墓地の管理について：当山墓地に何年もの間お参りがなく、損傷が激しかったり、倒壊してしまった墓石があります。連絡の付かないお檀家様です。該当墓地に立て札を設置。心当たりの方はご連絡をお願いします。